

国民健康保険制度が抱える諸問題が国保財政に及ぼす影響

中京大学 湯田道生

[概 要]

国保制度は、加入者の高齢化や低所得者の増加、小規模保険者の増加、保険料収納率の低下などといった構造的な問題を抱えていることから、その財政状況が極めて深刻な状況にある。加えて、それらの他にも、事後的モラルハザードや医師誘発需要に代表される医療サービス需給の非効率性や、多額の国庫補助が存在するが故に、保険者に費用効率化のインセンティブが欠如しているといったソフトな予算制約の問題なども抱えていることが指摘されている。本稿では、国保制度が抱えるこれらの諸問題が、国保財政にどのような影響を及ぼしているのかを定量的に分析した。

国保歳出の費用関数を、確率フロンティアモデルで推定した結果、特に、加入者の高齢化や保険料収納率の低下、及び調整交付金の存在が、国保財政の非効率性の拡大に大きな影響を与えていることが分かった。その他にも、医療サービス需給の非効率性や基金からの繰入金が存在が、国保財政の非効率性を高めている要因であることが分かった。一方で、被保険者規模が大きいほど、国保財政の効率性は高まるという結果も得られており、このことは、昨今の平成の大合併によって、多くの保険者の財政の効率性が幾分か高まったことを示唆するものである。

キーワード：国民健康保険制度，国保財政，ソフトな予算制約，確率フロンティアモデル

JEL Classification Number : H75, I10, I18